

第1回放課後対策事業運営委員会 会議概要（議事録）

- 日 時 平成27年5月29日（金） 午前9時30分から午前11時55分
- 場 所 我孫子市役所 議会棟 会議室A・B
- 出席者
 - 委 員 廣瀬英男（委員長代理）、北原靖子、佐藤哲康、鈴木貴洋、小谷愛子、有馬ちえみ、坂手千代子、浦島誠、上野茂、平八重敬子、鈴木幸子、小林加代、増田建男、鈴木与志実
（オブザーバー） 蓮見元子
 - 子ども部長 磯辺久男
 - 事務局 コーディネーター：古高すま子、森井貴美子、大野敦子、佐藤里美、野原明美、河村千春、飯塚章江、
子ども支援課：相良輝美、町田育代
- 事前説明
 - * 議事録作成のための録音許可について
 - * 傍聴要領の承認について
 - * 委嘱状・辞令の交付について
 - * 資料確認
- 1. 委員長あいさつ
- 2. 委員自己紹介及び事務局紹介
- 3. 本委員会の任務及び平成27年度年間スケジュールについて
- 4. これまでの経過説明
 - (1) 我孫子市における放課後対策事業における検討経過について
 - (2) 平成27年度学童保育室入室状況について
 - (3) あびっ子クラブにおける1年間の活動状況について
事故報告について
 - (4) あびっ子クラブ登録状況について
 - (5) 平成27年度放課後対策事業における新規事業の進捗状況
- 5. 各あびっ子クラブの運営報告及び課題検討について
 - (1) 各あびっ子クラブの近況について
 - ・湖北台東小あびっ子クラブの進捗状況
 - ・並木小あびっ子クラブの進捗状況
 - ・湖北台西小あびっ子クラブの進捗状況
 - (2) あびっ子クラブにおける課題検討について
- 6. 川村学園女子大学研究グループによる発表
- 7. その他
 - 次回以降の運営委員会開催の日程について
第2回 8月中旬予定

公開／非公開：公開

傍聴人：無

●会議概要（要約）

【開 会】

- ・ 議事録作成のため、録音させていただきたいがよろしいか。[異論なし]
- ・ 「会議の公開に関する情報公開条例」、「審議会等の会議の公開に関する規則」に基づき、原則公開としたい。また、会議の公開にあたり、傍聴に関するルールを定めた「傍聴要領」(案)を作成しましたので、ご承認いただきたいがよろしいでしょうか。[異論なし]
- ・ 異論がありませんので、「傍聴要領」に沿って、傍聴人の手続きを行わせていただきます。本日は、傍聴人の届け出はありませんでした。
- ・ 委嘱状については、委員の机の上に置かせていただいておりますので、ご確認ください。
- ・ また、市の職員については、辞令を省略いたしますので、ご了承ください。

1. 委員長代理あいさつ

平成27年度第1回放課後対策事業運営委員会にお集りいただき、ありがとうございます。本日は、子ども部長が出席しておりますので、部長よりあいさつをさせていただきます。

(子ども部長) おはようございます。本日は、第1回放課後対策事業運営委員会にご出席いただき、ありがとうございます。昨年度、皆様には学童保育とあびっ子クラブの一体的運営方法やその検証、評価を行っていただいたこと等々、今年度からスタートいたしました子ども子育て新制度に向けた学童保育の設備や運営費、入室基準などにつきましてもご検討いただいたことに感謝申し上げます。さて、今年度ですが、あびっ子クラブを新たに3校開設する予定です。6月には8校目として我孫子第二小学校、9月には9校目として我孫子第四小学校、10校目として高野山小学校に設置し、平成31年度までに全小学校に設置する予定としております。学童保育とあびっ子クラブの一体的な運営をすることで、子どもたちの放課後が更に充実するよう進めて参りたいと考えております。また、今年度から、当委員会を国の放課後子ども総合プランに基づく運営委員会として位置付けたいと考えております。詳しくは後ほど担当者から説明させていただきますが、これまで以上に総合的な放課後対策に関しまして、ご意見をいただくこととなりますが、何卒よろしく願いいたします。甚だ簡単ではございますが、挨拶とかえさせていただきます。本日はよろしく願いいたします。

2. 委員自己紹介及び事務局紹介

(委員長代理) 本来でしたら、子ども支援課長が委員長を務めさせていただくところですが、本日所用により欠席となります。また副委員長も同様に欠席ということで、本日は、私、子ども支援課主幹が司会を務めさせていただきますのでよろしくお願い申し上げます。本日は平日という日程、お忙しいなかご出席いただきましてありがとうございます。日頃より放課後対策事業にご理解ご協力いただきまして

ありがとうございます。部長の話にもありましたが、昨年度は子ども子育て関連新法による準備の年で、色々と制度の変更がございました。本当にこの制度が我孫子市にとってよい制度かどうか疑問のところもございますが、とりあえず平成27年4月からスタートしましたので、よろしく申し上げます。また昨年度放課後対策事業につきましては、色々な新しい変更がございました。学童保育室及びあびっ子クラブにおける春休み期間の開室時間の繰り上げ、ファミリーサポートセンターでの休日保育の対象年齢拡大、また、特に我孫子市では学童保育室は長らく公設公営で推進してきましたが、より良いサービスを提供するということから、四小学童保育室で民間会社への委託を4月から開始しました。また本年度に開設予定の四小あびっ子クラブにおいても同じ委託業者が一体的な運営をしていく予定です。このような形で我孫子市は進んだ事業を行っています。千葉県でも全国でも先進的な事例として注目を浴びているところです。しかし、この放課後対策事業というものは、市単独ではできないので、更に今後先進的に進めていくためには、まずは利用している子どもたちにとっても、保護者の方々にとってもより良い事業としていくために、本委員会でご意見ご議論いただきたいと思っておりますので重ねてよろしく申し上げます。以上、挨拶といたします。

本日第1回目の運営委員会です。新たに委員になってくださった方もいますので、自己紹介をお願いします。こちらからお願いします。

(委員) 川村学園女子大学の教授です。昨年は国内研究があったので、委員会には出席していませんでしたが、サポーターを我孫子第一小学校でやらせていただくととても楽しかったです。よろしく申し上げます。

(委員) 同じく川村学園女子大学の助教です。私は昨年从此らの委員会にお世話になっています。今年もよろしく申し上げます。

(委員) 布佐南小学校の校長をしております。昨年度に引き続いてお世話になります。よろしく申し上げます。

(委員) 皆さまおはようございます。我孫子第三小学校のPTA会長をやらせていただいております。よろしく申し上げます。

(委員) 湖北台西小学校PTA会長です。よろしく申し上げます。

(委員) 我孫子市湖北地区民生委員です。西小あびっ子のサポーターをやらせていただいています。とても可愛い子たちで楽しいです。今年もよろしく申し上げます。

(委員) 教育委員会指導課の課長補佐です。よろしく申し上げます。

(委員) 同じく教育委員会生涯学習課長です。よろしく申し上げます。

(委員) 子ども子育て会議という子ども部の中にある会議の中の代表という形で出席させていただいています。よろしく申し上げます。

(委員) 高野山小のあびっ子が9月にオープンするにあたり、お世話になります。よろしく申し上げます。

(委員) 湖北台東小あびっ子クラブのサポーターとして所属しています。よろしく申し上げます。

(委員) 我孫子市学童保育連絡協議会の代表です。1年間よろしく申し上げます。

- (事務局) この運営委員会を運営していくにあたり、皆さんと4回ご一緒させていただくこととなります。よろしくお願いいたします。補足になりますが本来であれば、我孫子第二小学校に6月1日にオープンするあびっ子クラブのコーディネーターが出席することになっていたのですが、急きょ低学年のあびっ子クラブ練習会が開催されることになりまして、本日はお休みをいただいておりますのでご了承ください。また本日の最後に川村学園女子大学から研究発表事例があり、昨年まで委員を引き受けていただいた先生が同席されていますのでよろしくお願いいたします。
- (事務局) 事務局の子ども支援課です。この4月から子ども支援課に配属になり、分からないことばかりです。皆様からご指導いただきながら勉強させていただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。
- (事務局) 湖北台東小あびっ子クラブのコーディネーターをしております。よろしくお願いいたします。
- (事務局) 並木小あびっ子クラブのコーディネーターをしております。よろしくお願いいたします。
- (事務局) 布佐南小あびっ子クラブのコーディネーターをしております。よろしくお願いいたします。
- (事務局) 一小あびっ子クラブのコーディネーターをしております。よろしくお願いいたします。
- (事務局) 根戸小あびっ子クラブのコーディネーターをしております。よろしくお願いいたします。
- (事務局) おはようございます。三小あびっ子クラブのコーディネーターです。よろしくお願いいたします。
- (事務局) 湖北台西小あびっ子クラブコーディネーターをしております。よろしくお願いいたします。

3. 本委員会の任務及び平成27年度年間スケジュールについて

- (委員長代理) 本委員会の任務及び平成27年度年間スケジュールについて説明します。
- 任務および検討内容については、国が示す放課後子ども総合プランに基づき、本委員会の設置要綱を改正しました。主な改正点は、委員の構成として教育委員会関係者を加えること、委員会設置の義務化、検討内容となっています。具体的な検討内容は、学校施設の徹底活用した実施及び促進、一体型の放課後児童クラブと放課後子ども教室の実施、教育委員会との連携の実施等が挙げられています。この運営委員会の設置についても我孫子市は他の市町村に先駆けて設置していますので、改めて新規設置ということではなく、本委員会を充実させるということで役割を果たすものとなっています。そのため、新たに今年度から構成員として学校支援地域本部関係者の代表者ということで教育委員会指導課の方に加わっていただいております。また、先ほどお話ししたように教育委員会と市長部局の連携が求められている中、教育委員会自体の制度改革により、教育長と教育委員長の一本化、市長が設置する教育総合会議の開催が今年度から予定されています。このような背景もあり、連携の方策に関する検討内容として、「教育委員会と市

長部局との具体的な連携方策に関すること」、「小学校の余裕教室等の活用方策と公表に関すること」、等が加わっています。その他、活動プログラムに関することやボランティア等の確保策等、追加された検討内容については、既に本委員会において議論されてきたものですが、国の示す内容に基づき、設置要綱は改正しました。以上の変更をふまえ、今年度は議論していきたいと思えます。次に、平成27年度年間スケジュールについてです。第1回目は本日5月29日（金）9時半から11時半までということで開催されています。年4回の開催を予定しています。2回目については8月中旬、3回目は11月中旬、4回目は2月下旬の予定です。場所の確保やスケジュール調整がありますので、決まり次第通知させていただきます。本日のところ、具体的な日にちの設定はしていませんが、開催時間は、原則として9時半から11時半としておりますので、ご協力、ご出席よろしく申し上げます。以上となります。

（委員長代理）本委員会の任務及び平成27年度年間スケジュールについて、何か質問等
はありますでしょうか。

質疑等なし。

4. これまでの経過説明

（委員長代理）これまでの経過説明ということで、事務局から説明させていただきます。

（1）我孫子市における放課後対策事業における検討経過について

（事務局）「放課後子ども総合プラン行動計画」について、昨年度は本委員会で途中経過までの説明ということになっていましたので、改めてこの計画がどういう作りになっているのか、また我孫子市は今後どういう方向で動いていくのかということをお説明していきます。我孫子市では小学生を対象とした放課後対策事業として、平成8年から公設公営で保護者の就労等を支援し、家庭で保育ができないお子さんをお預かりする施設として、学童保育室を運営してきました。しかし、昨今、子どもたちの遊ぶ場所がない、公園であってもボール遊びは近所の方から怒られるためできない、また道路で遊んでいると交通状況により危険が伴う等々ということで、子どもたちが遊ぶ場所が少ないというのが現状の中、子どもの居場所、遊び場づくりへの政策が平成13年に立ち上がりました。乳幼児や小学校に入る前のお子さんについては、現在保育課で「すこやか広場」や「にこにこ広場」、「すくすく広場」等の子育て支援施設を運営しています。小学生を対象とした事業としては、児童館を想定して、小学校の施設を使った、子どもたちが安心安全に遊べる、様々な体験ができる場である「あびっ子クラブ」が平成19年からスタートしています。これまで、1年に1校ずつ開設してきましたが、今年度は、6月の二小あびっ子オープンに加え、非常に多くの方に望まれているということで、9月に高野山小と四小に開設することになり、全10校となる予定です。本来は、学童保育は生活の場、お子さんをお預かりをする施設として、あびっ子クラ

ブは子どもたちが自由に来て遊びや体験ができる場としてスタートしましたが、同じ小学校の中で同じ時間を過ごしている子どもたちが大人の事情で別々に過ごすというのは、今後の成長の過程において好ましくないという考えのもと、より子どもたちの成長を促していくことを目標に、我孫子市ではこの2つの事業を一体的に運営するということが平成21年度から実施してきました。当時から国が注目していた事業ですが、先ほど部長や主幹から話がありましたとおり、学童保育は家庭の代わり、つまり就労支援として厚生労働省の管轄、あびっ子クラブは子どもの居場所、放課後を充実させるということで、文部科学省管轄の事業となっています。この両省が共同で作成した「放課後子ども総合プラン」が平成26年7月に発表され、これに基づき、安倍首相が、全国すべての小学校区でこの2つの事業を一体型を中心とした形で進めるという方針が出されました。これまでも、我孫子市は先進的に事業展開していたのですが、更に全小学校区にあびっ子を設置し、一体的な運営を進めていくという方針を打ち出し、「放課後子ども総合プラン行動計画」を策定しました。「放課後子どもプラン」は平成19年に立ち上がったのですが、国は厚生労働省と文部科学省の管轄、全国の他の市町村の動向を見ると、教育委員会であったり、市長部局であったり、様々な部署で別々に事業が行われていて、なかなか一体的な形が進んで行かないということをよく聞きます。このような状況を受け、改めて国は共同で「放課後子ども総合プラン」を策定するとともに、内閣府も加わり、より実効性のあるものにしていこうという方針が打ち出されています。このような背景に基づき、我孫子市の今後の目標値を本計画の中に記載しています。学童保育室は市内13か所すべての小学校に設置されているため、一体的な運営を実施するため、あびっ子クラブを市内の小学校すべてに設置するということが目標値としています。27年度までの設置予定はお話させていただきましたが、今後の予定としては、29年度に新木小にあびっ子クラブを設置することを目標に、今年度は実施設計を行い、28年度は新築工事をする計画となっています。更に湖北小についても学校からお部屋をいただいているため、保護者の要望等を聞きながら、設置を検討していきたいと考えているため、29年度の目標として計画しています。布佐小については平成30年に設置を計画しています。なお、布佐小は学童の子どもが非常に多く、小中一貫で布佐小と布佐南小で合同で事業をやる方向性も見えていましたので、布佐小の児童は今年の4月から布佐南小のあびっ子クラブを利用できるようにしています。すでにご利用いただいている方もおり、お父さん、お母さんはお仕事をされて、1日長い時には、一緒に住んでいるおじいちゃんおばあちゃんが面倒を見ている、しかしおじいちゃんおばあちゃんも朝から晩まで1日中面倒を見ているというのは正直きついです。そういう方が布佐南小あびっ子クラブをご利用になって、こういう施設があると自分たちも非常に助かるという声をいただいていますので、利用者の方にも非常に喜んでいただいている状況です。これから夏休みが始まりますので、より布佐南小と布佐小の交流が図れると良いのではないかと期待しています。続きまして、新制度がスタートし、1番変わった学童保育室の運営形態について説明します。これまで学童保育室は、保育園のように何人の子どもに対して何人の先生がつく、お子さん一人に対してこれだけの面積が必要ですよというような基準がありませんでした。これは作られた背景というのが要因と思われます。

学童保育室は、もともと保護者が、今までは保育園という子どもを預ける場所があったのに、小学生になった途端なくなってしまう、しかし自分たちも働かなくてはならないという背景を受けて、自分たちで立ち上げたものが全国的に広がってきた事業です。国の事業として認定されてきましたが、なかなか明確な基準というものは示されてきませんでした。しかし就労する方がだんだん増えてきている、女性が社会に出ることが非常に増えてきている、ということを受けて、全国の学童保育における格差を是正するため、国で最低基準を定めました。これに伴い、全国の市町村で最低基準が条例化され、我孫子市においても昨年度策定しています。内容としては、保育園のように何人の子どもに対して何人の先生がつく、お子さん一人に対しての確保すべき面積等が謳われています。さらに我孫子市としては、学童保育室を運営するためには、こういうものが必要であろうという施設用品等についても計画で謳っています。しかし、冒頭にも話がありましたが、この新制度によって必ずしも我孫子市が良い方向にばかり向かっているとは限りません。これまで学童保育を先進的に行ってきた我孫子市ゆえに課題が出てきたということもございます。その課題等については、「学童保育最低基準に対する課題と対応策」として計画に入れています。このような内容を受け、本委員会においても今後5年間我孫子市が放課後対策事業をどのように考え、どのように推進していくのか、皆さまのご意見をいただきながら、更に充実したものにしていきたいと考えていますので、ご協力お願いいたします。細かい所まで説明できず大変恐縮ですが、以上とさせていただきます。

(委員長代理) 引き続き、平成27年度学童保育室入室状況についての説明を事務局からお願いします。

(2) 平成27年度学童保育室入室状況について

(事務局) 平成13年度以降の毎年5月1日時点の学童保育登録児童数をまとめたものです。基準決定前、基準決定後と記載しているのは、今年度から新制度がスタートし、学童保育室の定員が変更されたためです。子ども一人あたりの最低専有面積として1.65平米を確保することとなっているため、基準決定後の定員が基準を確保した後の定員数となっています。26年度の定員と比べると定員が減っているところが多いのですが、いくつか同じ定員で推移しているところもあります。市全体としては、定員1,250名から1,055名となっていて、これまでより195名の定員減となっています。表全体の合計を見ると、平成19年が900名でピークとなっています。その後少しずつ児童数が減ってきましたが、平成27年は801名で若干増えたという状況です。

(3) あびっ子クラブにおける1年間の活動状況について

(事務局) 平成26年度1年間のあびっ子クラブ参加状況をまとめたものです。表の真ん中下が、平成26年度のあびっ子クラブ1日あたりの平均利用人数となっております、

大体例年通りの数字となっています。備考欄には、特に利用が多かった日などとして、懇談会や保護者の方が参加される行事がある時を記載しており、特にあびっ子クラブの利用が多いということが分かります。続いて、月別のチャレンジタイム実施状況についてです。チャレンジタイムとは、地域の方々がサポーターとなって実施して下さっている子ども向けの体験教室といったものです。一小あびっ子クラブにおける月平均実施回数は、17.5回となっており、地域にお住いのサポーターの方々が熱心にチャレンジタイムの活動をして下さっていて大変お世話になっていることが分かります。では具体的にどんな内容の活動をされているのかというと、習字、碁、お箏、けん玉、マジックなど様々なチャレンジタイムを実施していただいていることが分かります。子どもの中には、このチャレンジタイムを目当てにあびっ子クラブに来るというお子さんも多くいるようです。活動状況は、学校ごとにA3一枚にまとめていますので、お帰りになられてから、ご覧いただければと思います。

続いて、事故報告について説明します。平成26年度事故報告として、保険請求した事故の件数を示しています。学童保育室の方があびっ子クラブに比べて若干事故の件数が多くなっております。考えられる要因としては、1日の活動時間が学童保育室の方が長いということと、利用している人数が学童保育室の方が多ということからこのような数字になっていると思われれます。あびっ子クラブにおける事故として、実際に一小あびっ子クラブで起きた事故の内容を見ると、捻挫、打撲、擦り傷など、子どもたちが夢中になって遊んでいたところ怪我をってしまったというものが多く、今のところ大きなケガの報告は出ていません。事故報告については、以上になります。

(4) あびっ子クラブ登録状況について

(事務局) 平成26年度の学校別の登録状況の平均を見ますと、市全体で70%弱となっています。平成27年度の登録率を見ますと、平成26年度と大体同じ数字になっています。布佐小あびっ子については、登録率10.4%と低くなっていますが、先ほどもお話がありまして、今年4月から布佐小の子どもたちは布佐南小のあびっ子クラブを利用できるようになり、現在、夏休みに向けて追加で受け付けているところですので、登録率も少しずつ上がっていくと思われれます。来月6月1日にオープンする二小あびっ子クラブは68.9%となっていますが、オープンした後も追加で登録があると思いますので、これから更に登録率はアップしていくと思われれます。あびっ子クラブ登録状況については以上になります。

(委員長代理) 最後、(5) 平成27年度放課後対策事業における新規事業の進捗状況の説明をお願いします。

(5) 平成27年度放課後対策事業における新規事業の進捗状況

(事務局) 制度改正に伴い、非常に影響を受けた我孫子市として、色々な対応策を検討してきました。その実施状況を含め、説明します。まず1点目、これは制度とは別のところとなりますが、学童保育室の保護者から、毎年、市に対して要望事項として挙げられている中で1番多かったのが、朝の開室時間を早くしてほしいというもので、スタッフとも協議を重ね、この4月1日から入学式の前日まで、非常に短い期間ではありましたが、朝7時30分開室を実施しました。2点目として、夏休みに向けて、今も申請を受け付けていますが、例年春休み、夏休みは、非常に学童保育室を利用する方が多い時期となっています。夏休みは例年200名近い方がご利用されるということがあり、普段、生活の場として運営している学童保育室も何十人ものお子さんが来ると生活もガラッと変わるようになります。普段は子どもが小学校に行っている間お仕事をされている方が春休みや夏休みの学童保育をお使いになるという傾向があるので、そういう方々がもっと幅広く選択出来るように、この4月の春休みから長期休業中のみ、あびっ子クラブをこれまで10時開室だったところを9時開室ということで始めました。学童保育室7時30分開室に伴う利用状況は、春休みの短期利用者も含め、864名の登録の内、98名が申請し、そのうち、最大利用日数だけの人数をみると、62名となり、全体の約1割の方が利用されたということが分かります。ただし、こちらも地域差というものがあり、特に都内に電車でお勤めになっている方たちの多い我孫子地区での利用が非常に多かったです。また、布佐方面では成田線をお使いになっている方は、本数が少なく時間もかかるため、比較的利用が多かったというのが傾向としてあります。次に、あびっ子クラブ9時開室に伴う利用人数についてです。今、幼稚園で預かり保育事業というのを実施しているのですが、保育園に預けるまでではないけれど、パートをしている方が非常に多くなっているという傾向があり、そういう方々が子どもを行かせるということもあり、あびっ子クラブの9時開室の方も比較的人数は多かったです。9時ぴったりに来た子どもの人数を見るとそれほど多くはないという印象を受けるのですが、9時から10時までの間に来た数というのが、9時ぴったりに来た人数の3倍から4倍近い数字になっています。この状況を見ると、学童保育に預けるまでではないけれど、短時間勤務のパートをしている家庭の子どもたちの利用が多くなったのではないかと考えます。3点目についてです。四小学童保育室について、この4月1日から民間委託をスタートしました。事業者は茨城県つくばみらい市に拠点を置く株式会社アンフィニという会社で、これまで色々なところで保育実績のある事業者です。近くだと佐倉市や守谷市で学童保育室の運営をやってこられています。また小学生の保育だけでなく、幼稚園、病院内の先生たちのお子さんをお預かりするという形で小さなお子さんを保育する事業も展開しています。実際、保護者の方が一番ご心配されたのがスタッフの引き継ぎというところでした。引き継ぎ方法としては、実際に4月から入っていただくスタッフの方に市の臨時職員としてご登録いただき、昨年3月から現場に入っていただきました。また、四小学童保育室で勤務していた市のスタッフが2名、4、5、6月は引き継ぎのため残っていません。上手く行っているかという課題は多いです。市でもそうですが、新しく入

ったスタッフが子どもの面倒を見ていく、保育をするというのは非常に難しいところもあります。しかし皆さん一生懸命やっただいて、何とか本日まで来ております。これから迎える夏休みが正直どうなるんだろうという心配はありますが、スタッフの皆さんは非常に頑張っただいてるので、保護者の方もそこについては認めてくださっていると思います。事業者は市の運営をそのまま引き継いだけだけでなく、民間で運営するという特徴を出していただいています。主な特徴としては、朝の開室時間の拡大、夜の閉室時間の延長です。現在、我孫子市直営の保育室では7時45分とこれまでの8時から15分だけですが、早く開室していますが、それを全日7時30分開室というのがなかなか出来ない状況にあります。しかし四小については、1日保育、例えば運動会の振替休日、夏休み、予約制にはなっていますが、朝7時30分開室を実施しています。また我孫子地区は都内にお勤めになっている方、通勤時間が長いと2時間くらいになる方がいる地域なので、そういう方たちも含めて夜の閉室時間を延長してほしいという意見が多くありました。これまでは19時までということでお迎え遅れが日以上に多く市も苦慮していたのですが、予約制ではありますが19時30分まで開室していただくこととなりました。さらに、保護者からの要望として市に寄せられてきたものとして、夏休みのお弁当宅配も実施していただいています。お試しで2回実施していますが、取りまとめと注文が非常に大変なようです。毎日同じ子が毎日同じ人数来るのであれば安定した取りまとめができるのですが、学童の特徴として、今日はお休み、行きます、行きません、と、日々保護者や家庭の状況で利用者が変わり、毎日利用するお子さんが違うという状況が市直営の保育室で保育をしながらスタッフが実施できなかったという大きな理由だと考えます。四小では保護者との話し合いにより、本格実施は夏休みからということで予定をたてています。また、9月にオープンするあびっ子クラブも株式会社アンフィニに委託するので、我孫子市と同じ運営を取りながら、地域の方をもっと取り込んで、あびっ子クラブを充実していただくという方向で今後検討していきますので、進捗状況については次回の運営委員会で報告させていただきます。4点目は、休日保育における学童保育児の利用についてです。契約をした保護者と契約をした一般市民の方とのお約束で成り立っているお預かりをするシステムであるファミリーサポート事業は、もともと小さいお子さんを対象にしてスタートした事業でした。休日保育事業も、もともと運営していない日曜日や保育園が早く閉まってしまう土曜日等をカバーするために限定した保育園を開室することでスタートしているというのが全国的な動きです。しかし、この手法だと、利用されている方は非常に広範囲に渡るので、遠くて利用しない保護者も多く、利用率が上がらなかったということがあり、我孫子市では、現在より多くの方が自分の住んでる地域で利用できるようにファミリーサポートセンターで休日保育を実施しています。利用者の中には、保育園に下の子がいて上に小学生のお子さんがある、というご家庭において、下のお子さんは休日でも預けられるのに、上の小学生は家にいなくてはいけない、という声が多々聞こえてきました。そこで、新制度施行とともに休日保育をより多くの方が利用できるよう、見直しを行いました。内

容としては、学童保育に登録しているお子さんであれば6年生まで使えるようしました。また利用者が一番使わない理由としてあげていたのが小学生の利用料が高額になることです。1時間900円で、1日預けるとかなりの値段になります。そこで、「休日保育料」として9時から5時であれば2,000円という価格設定としました。実際、ゴールデンウィークにご利用された家庭が2世帯ありました。保護者の就労状況を見るとゴルフ場やデイサービスセンターで働いている方でした。サービス業のお仕事をしている方は土日も仕事があるため、利用する方がいることが分かりました。今年は9月のシルバーウィークが長いので、そこに向けてもう一度宣伝をしていこうと考えています。最後になりますが、私立幼稚園における小学生の預かり保育についてです。学童保育は非常に利用者が多いため、学童保育以外にもお子さんたち預ける選択肢を増やしたい、ということで、市内の私立幼稚園をお願いをして、弟妹が幼稚園に通っている、または卒園した小学1年生から3年生までを対象として預かり保育を実施していただいています。これは幼稚園の自主事業となるので、幼稚園児と小学生を同じ施設で保育していただくことの不安もある中、無理な願いは出来ないというところもありました。そのため、小学生を預かっていただいた園に市から一部助成をしていくという制度で立ち上げました。利用状況を確認したところ、春休みは3名から4名、通年で毎日来ている方が1名利用しており、夏休みは4名の方の予約が入っているとのことです。ただ、春休みに利用して、湖北白ばら幼稚園で小学生の預かり保育が行われていることが少しずつ口コミで伝わっているようなので、夏休みについてはもう少し利用が増えると見込んでいます。実際に保育をしている先生とお話しをしたところ、他では大きな子と小さな子が一緒に遊ぶのは非常に心配という声があったようですが、実際に今まで園で過ごしてきたお子さんたちなので、幼稚園児の相手をしてくれたり、先生のお手伝いをしてくれ、非常に助かっているというお話をいただきました。これから夏休みに向けて、子どもたちとどう楽しく過ごせるかということを目標に、先生たちで相談しているというお話でした。以上です。

(委員長代理) 昨年度の学童保育における様々な状況と今年度から始まった新規事業について事務局から説明がありました。今までの説明につきまして、何か質問、疑問、感想でも結構ですので、ご発言をお願いします。

(委員) 聞き逃したと思うのですが、私立幼稚園の預かり保育の費用というのはどうなのでしょう。お子さん一人につき、園にいくら支払うのでしょうか。

(事務局) 幼児の預かり保育はどの園も実施しており、その金額と同じとなっています。どの園も大体1時間200円くらいですが、園によって若干金額は違います。

(委員) 利用できるのは通っている園児と、その兄弟ですか。

(事務局) 園児に弟妹がいる小学生と卒園児です。湖北白ばら幼稚園は、実際に1時間200円です。

(委員長代理) 他に何かありますか。色々な経過の説明もありましたが、利用者の代表として、いかがでしょうか。

(委員) 私は学童を利用しているのですが、お弁当の宅配はいいな、と思いました。ファミリーサポートについても初めて知ったので、すごく助かるなと思い、勉強になりました。

(委員長代理) 他に何かありますか。放課後事業については、子ども子育て会議においてもかなり多くの時間を割かれ議論してきましたが、今の経過説明等お聞きになり、いかがでしょうか。

(委員) 放課後対策事業というだけでなく、すべての子どもたちを育てていかなければならない、それが市の大きな考え方だということはよく分かります。新しい制度がスタートして2ヶ月くらいですが、小さな課題というか想定される課題は今報告いただいたので、そうだろうなと思いました。基本的な運営の状況は想定内というか上手く運営されていると思います。ひとつ、先ほど出た中で、今後どうなるのかと頭をよぎったのが、布佐南小学校のあびっ子クラブを布佐小学校の子どもが来て一緒に過ごすことができるという事例ができましたが、保護者の実情からすると、自分の通っている学校にしか子どもを預けられないのか、ということではなく、隣の学校の方が私は都合がいい、という気持ちを抱く親が出てこないとも限らない。そういう流動的な視点であびっ子クラブの配置を考えていくこともありなのかなと思います。具体的に公にしなくても、流動的に対応していただければ、保護者としてはありがたい、活用しやすいのかなと思いました。

(委員長代理) その他、何かありますか。川村学園女子大学の先生方、これまでの実施状況や、今後の進め方等について何かありますか。

(委員) 委託が入ってきまして、色々課題もあるとおっしゃっていたので、公設公営で今までやってきたものとは違う、どういう大変さに今立ち向かっているのかをもう少し具体的に、どういうところが大変なのかを教えてくださいたいです。

(事務局) スタッフ全員が変わるということはないことで、市直営では誰かしらスタッフが残っていて、この先生に言えば話が通じるという体制になっています。しかし四小についてはこの点が希薄になっています。これまでは市の先生だから「こういうこともあるから仕方がない」と思っていた保護者も、若干ですが厳しい目になっていると思います。スタッフ同士がお互いにカバーできる体制が、まだまだ構築できていないというのが実感としてあります。市直営の保育室でも毎年異動

があり、スタッフも4月は大変だと改めて思いました。

(委員) そういう色々な大変さはあるけれど、選択肢の一つとして、今後も様子を見ながら委託をしていくというのは、どんなメリットがあるのか。サービスが多様化する等の、委託の意義を教えてくださいませんか。

(事務局) 一番大きいのは、学童保育に勤務しているスタッフの確保策です。どこの市区町村も課題になっていますが、この仕事は自分の子どもが帰ってくる時間にお仕事をしなければならないので、働く時間帯が非常に難しいです。一旦、子育てを終えられた方がお仕事に就くことが多いので、年齢からすると早くて45～50歳でスタートする方が多いです。そうすると何が課題になっているかというと、これまで雇用してきた方たちが団塊の世代の方が多く、ここ数年でほとんどの方が退職するという事です。ただでさえ人材確保ができない中で、退職の方がたくさんいるということが当面の課題となっています。我孫子市も同じで、今後5年間を見ていくと、働くお母さんが増えているので、学童の利用者は減らない、そのためスタッフは必要になるということです。市でも頑張って募集をするのですが、なかなか人が集まらないという現状があるため、民間の力を借りて学童保育室を運営していきたいというところです。

(委員長代理) その他、何かありますか。ないようなので、続いて5. 各あびっ子クラブの運営報告及び課題検討について、各あびっ子クラブの各コーディネーターからお願いします。

5. 各あびっ子クラブの運営報告及び課題検討について

(1) 各あびっ子クラブの近況について

湖北台東小あびっ子クラブの進捗状況

(事務局) 湖北台東小あびっ子クラブから報告します。湖北台東小あびっ子クラブは本年3年目を迎えました。昨年2年目から始めている事業ですが、湖北台西小あびっ子クラブと合同で、こいのぼりまつりという地元のイベントに参加しています。湖北台中央公園という大きな公園に地元の方々がこいのぼりを沢山集めて吊るすというものですが、西小と東小のあびっ子クラブの子どもがこいのぼりを作り飾り、一番下の段にたくさん飾ってくれます。子どもたちが徒歩遠足で公園に行き、自分が作ったこいのぼりの前で写真撮影してから歩いて出かけるというように微笑ましい感じでやっています。地元のサポーターさんはじめ、東小学校の周りの大人たちは子どもを見る目が沢山あり、「外で遊んでいる子が多い」「こいのぼりまつりを見に来てくださる方が多い」という声が聞こえてきます。あびっ子クラブでは子どもたちに作ってもらった時の子どものへ声掛けというのはありま

すが、設置から取り外し、片付けまでを地元の方が手伝ってくださり、とてもありがたいです。子どもたちも作るのを楽しみにしていますし、自分たちで作ったこいのぼりを親と一緒に見に行くというのもあって、とても楽しくやっています。子どもの数はそれほど多くありませんが、東小の周りは公園が充実しており、公園で時間を気にせずに友達と遊ぶという姿も見られ、子どもにとってはそういう場で過ごすこともいいのかなと思っています。周りにも大人の目がありますので、歓声をあげながら外で遊んでいる子どもたちを見ると、「あびっ子クラブではないのだけれどなあ」と思いながら見えています。そのせいか、あびっ子クラブに来る子どもたちは外では遊ばずに部屋で遊びたい子が多く来ているようです。以上です。

並木小あびっ子クラブの進捗状況

(事務局) 並木小あびっ子クラブから報告します。今年2年目になりますが、学校の地盤が弱いせいか、昇降口を出て学童保育室とあびっ子クラブが並んであるのですが、その前がすぐに水たまりができてしまう場所でした。あびっ子クラブができ、多くの子どもたちが来るので砂利で整備してもらいました。しかしその石が結構大きく、子どもが手に取るのにちょうどよい大きさと、石を投げてガラスを割ったりするようなことがありました。またそこで転ぶと大きなケガになり、顔を擦りむいたりする子どもも出ました。そこでなんとかしなければということで、子ども支援課とも相談をし、5月の連休前にアスファルトの舗装にさせていただきました。しかし、舗装したところと舗装してないところで少し段差ができてしまい、あびっ子クラブにお迎えにきてくださった方のベビーカーが転んでしまいました。ケガはありませんでしたが、小さいお子さんが大泣きしてしまったということがありましたので、再度子ども支援課に依頼し、段差を埋めていただきました。実際には教育委員会が早急に整備してくださったので、良かったと思います。ただ、並木小は陥没します。先日もあびっ子クラブの前のところも急に穴が開いたり、つくし野門のところも急に穴が開いたりということがありました。もともと地盤の悪いところとは思いますが、いつ落ちるか分からないので、変なところは歩かないようにと子どもたちに話しながら過ごしています。以上です。

湖北台西小あびっこ子クラブの進捗状況

(事務局) 湖北台西小あびっ子クラブから報告します。3月、4月頃から急に利用者が増え、現在、毎日50名前後が利用しています。昨年の利用人数プラス1年生が加わっているので、今のところ多いのではないかと思います。先ほど東小コーディネーターから話がありました「こいのぼりまつり」ですが、大きくて可愛いのが5日間くらい元気に泳いでいたので、ボロボロになりましたが2匹持ってききましたので後ほどご覧ください。昨年も参加し、今年で2回目です。昨年に比べて、折り紙を使ったり、色を工夫したりしました。また、去年は出さなかったけど今

年は作ってみようと参加する子もいました。こいのぼりは1日で仕上げるのは難しく、あびっ子の子どもたちは、毎日来る子も、たまに来る子もいるので、出来上がりは様々となっていました。そのため、こいのぼりに名前を書いておき、来た時に続きを作れるようにしていました。昨年よりは数は少なかったのですが、昨年出して今年出さなかった子も「来年は出そう」と言っていました。きっと湖北台中央公園に行って、自分のこいのぼりが泳いでいないのを見たのだと思いますが、子どもたちは今から来年に向けて張り切っています。次に高学年の利用についてです。4時半まで部活をやって、終わってからあびっ子に寄るという子が結構います。そうすると、今は1、2年生で30～40名いるので、高学年の子の居場所がなくて少し可哀そうです。それでもあびっ子は5時まで空いているので、あびっ子でちょっと一息入れてから帰ろうかなという子どもたちのための居場所、ほっとできる場所を作ってあげられたらいいなと思っています。チャレンジタイムでは、詩吟がスタートしました。あびっ子のメインルームの隣が地域交流教室となっており、毎週土曜日に詩吟の方が活動していました。「第4土曜日は活動がないので、もしよかったら子どもたちに教えたいです」という申し出から始まりました。最初は子どもたちも「何だろう？」という感じでしたが、先生も根気よく「一人でも二人でも構いませんよ」とおっしゃってくださって、月に1回ですが続けています。また、吹き矢もスタートしました。たまたま知り合いの方がいて「やってみたい」ということで始めました。始まったばかりなので、子どもたちも興味を持って参加しています。資格を持っている方がきちんと危なくないように教えてくれています。次に、学童保育やあびっ子クラブの子どもたちに様々な体験を提供してくれるパコモさんによる「子ども創造教室」についてです。内容としては絵を描くということをしてくれました。まずは木を描いて、それから好きな動物を描いて、自分たちで創造しながら、絵を完成させていきました。パコモさんからは、ただ遊ぶのではなく、子どもたちが創造する時間も設けたら良いのではないかと、という提案をいただきました。これから月1回くらいのペースで継続していけると良いかなあという相談をしています。以上です。

(委員長代理) ありがとうございます。挨拶の中でも話しましたが、サポーターの皆さんの協力があって色々な活動を子どもたちが体験することができます。特に色々なチャレンジがある日には参加者も増えると担当から聞いています。大変盛況に進みつつあると感じています。一体的な運営で学童保育の子どもたちもたくさんチャレンジに参加できるよう工夫されていることが特徴となっていますので、日頃からご協力をいただき、本当にありがたく思っています。何か質疑等ございますか。サポーターをやっている委員、いかがでしょうか。

(委員) こいのぼりまつりの話になりますが、湖北台のまちづくり協議会、自治会連合会、社会福祉協議会、この3つの団体の大人たちが、協力して、家で不要になったこいのぼりを吊るしています。こいのぼりを取り付けるのですが、取り付けるところから楽しさが伝わってきます。しかし、お天気の関係で夜も寝てられません。

風が吹いてきた、こいのぼりがどこかへ飛ばされてしまったかなとか、夜中に雨が降るとなると、西小のサポーターさんと「夕方こいのぼりを外しに行っても朝また取り付ければ間に合うよね」と、メールでやり取りし「5時に外しに行こうね」と約束して現地に行ったら、すでに地域の方々が前もって外して丁寧に箱にしまってくださいだったり、朝行ったらすでに吊るされていたりと、子どもたちを湖北台という地域全体で守っているというのが伝わってきます。どんなことでもいいから、西小、東小のあびっ子のサポーターになっていただけるように、知っているおじさんやおばさんに「おじさんのそういうところが凄いいからあびっ子サポーターにお願い、なって！」と声掛けしたり、様子をみたりして、楽しみながらサポーターをやっています。

(委員長代理) 他の委員いかがですか。

(委員) 根戸小学校のあびっ子クラブでサポーターとして消しゴムハンコと手芸をお手伝いさせていただいています。月に1回ですが、子どもたちがすごく楽しみにしてくれていて、子どもたちが楽しんでいる様子を見ると、私たち大人も元気をもらえりし、私自身も下の子が小学5年生と上の子が中学3年生なのですが、あびっ子に来て自分の好きな活動をしているととても良いことにつながっているので、子どもたちも楽しんでくれて、サポートする側も楽しめるということで、とても素晴らしいところだと思います。湖北台の活動の様子を見ると、地域の方の目など、色んな人に支えられて活動している、ということがよく分かりました。そういう活動が広がっていけば良いと思いました。

(委員長代理) ありがとうございます。他の委員、いかがでしょうか。

(委員) こいのぼりまつりについては、こういうふうにしたらどうか等、毎年課題が残り、大人も作り上げていくのに工夫をしなければいけないということがよく分かりました。子どもたちも「僕が作ったのはこれだ」と言いながら楽しんでいるので、とても素晴らしい企画をいただいたと思います。子どもたちも私のことを覚えてくれていて、帰りがけにランドセルを背負って、「今日はあびっ子の先生にならないの」と聞かれて、「今日はごめんね、気を付けて帰ってね。」と声をかけてくれる顔見知りができる、私も楽しんでおります。

(委員長代理) 色々と参加して下さっているということなのですが、コーディネーターも難しい面があると思います。コーディネーターをされていて大変な部分などはあるのでしょうか。

(委員) 私はまだ高野山小のコーディネーターとしての活動はしてないのですが、これまで勤務していた四小学童保育室は、沢山の子と沢山の親と密に接する場だったので、今こうしてコーディネーターとしての勉強をしています。あびっ子では、学

童よりも沢山の子と沢山の地域の方と接するのだなと強く感じていますので頑張ります。

(委員長代理) ありがとうございます。皆さんこのように頑張ってくださっているということです。今回は制度変更により、今後学校地域支援本部との連携も検討する上で、委員として指導課に加わっていただきましたが、これまでの話を聞いて、地域と学校という形でご感想いただけますでしょうか。

(委員) 学校支援本部との兼ね合いについては、具体的にはまだちょっとイメージできていないのですが、話を聞いて、子どもにとって遊びが一番大事だということは自分自身も分かっているのですが、これまでの経緯を考えると、放課後、昔は学校に子どもたちが残って遊んでいて、そこで遊びを通して子どもたちがコミュニケーションをとっていたのですが、昨今は、遊具を使って遊んだりして、ケガをした場合の責任問題等で学校は放課後を閉鎖してきました。「早く帰りなさい」という時代が長く続いてきました。そういう中であびっ子クラブができたことで、子どもたちが遊べる、しかも大人と関わることもできる、そういう関わり合いが良い面として出て来ているなどと思います。私は昨年、湖北台中の教頭をやっていた時に、子どもたちが非常に穏やかだと感じました。湖北台中の子は、10年位前までは、少し良くない噂もありました。しかし、私が感じたのは、本当に可愛がられている子どもたちの行動や表情でした。穏やかで、友だちに対して優しい子が多かったです。そういう中で、先ほどお話があったように、地域の色々な組織が見守ってくれたり、あびっ子や学童の関わりがあったり、色々な人に支えられているのだなということを改めて実感しました。学校だけ、家庭だけでは子どもは育てられません。これからもこのような活動が広がる中で、子どもたちを総合的に育てていけたらと思いました。そのような中で、学校支援地域本部がどういった関わりを持つことができるか、これから考えていきたいと思っています。

(委員長代理) よろしくお願ひします。これまで学童保育の経過やあびっ子クラブの運営報告がされてきたのですが、PTAの代表も来られているので、今までの感想やご指摘等でも結構ですので、お願ひします。

(委員) 正直、私自身仕事に向かってしまっていて、子どもがどんな活動をしているか把握できていない部分があります。その中で、こういうあびっ子という場を設けていただき、通知文等は目を通していて頭では分かってはいたのですが、今報告等聞いていて、ああすごくいい場所なのだなという感想を率直に持っています。うちの子も下の子が3年生ですが、三小では茶道をやっているとのこと、すごく楽しんでいるようです。人数設定が少ないようで、「予約制だよ」「前日に名前書いておかないといけないの。書くのを忘れたから今から戻って書いて来る」そんな感じで子どもは楽しんでいるのだなと見えています。もちろん、やる方は大変だなと思いますが、このまま続いていって欲しいです。そして多くのこ

とを経験する機会を与えていただいている場なのだなと感じました。

(委員) うちの子は今5年生ですが、西小で2年生の時にあびっ子クラブができ、2、3年生の時は随分利用させていただいたのですが、4年生から部活が始まり、うちの子は吹奏楽部に入ったらほとんど放課後練習なので、あびっ子があっても、昨年登録しましたが1回しか行けませんでした。今年も登録どうしようかなと思っているうちに、締切が過ぎてしまい、登録しそびれました。陸上部の子は平日練習がない日が多いようで、あびっ子に行かれています。吹奏楽部の子はあまり利用できない感じになっていて、不公平感というか、もうちょっと遊ばせてあげたいな、と個人的には思っています。うちの子はあびっ子クラブが疎遠になってしまってちょっと残念です。来年は忘れずに登録しようと思えます。

(委員長代理) 校長先生も出席していただいていますので、学校側の立場としていかがでしょうか。

(委員) 働いている保護者にとっては、すごく便利で助かるなという意見や感想なのだろうと思います。最近お母さん方も仕事をされていて、充実していると感じます。反対に学校側から考えると、仕事優先で働いている方もいて、良い面もあるのですが、お母さんは仕事を一生懸命やって働いているので、子どもを色々なところに預けられるということが子どもにとってはそれでいいのかな、ということも最近感じています。親子関係が全体として薄まってきているような気がします。学校の行事にも参加者が少なくなっているという実態があります。そのため、地域の方や色々なサポーターの方が関わってくださる、子どもの遊び場があってもすごく良い面もあるのですが、親子関係が薄まってきているという良くない面も出て来ていると感じます。良い面はこれからもずっと伸ばしていただければと思いますが、親子関係や学校行事の参加率を上げるという意識もぜひ保護者に持っていただきたいと思えます。子どもたちのためにやっているものなので、これからも子どもたちのためになっていけばよいなと思えます。働くお母さんのためにはすごく良いと思えますが、良くない面についても考えていただけたら学校側としても良いと思えます。

(委員長代理) ありがとうございます。続きまして、あびっ子クラブにおける課題検討ということで、事務局お願いします。

(2) あびっ子クラブにおける課題検討について

(事務局) 皆さんと意見交換し検討したい課題が1件あります。先日、9月にオープンする四小と高野山小の保護者に向けてアンケートを行いました。四小も高野山小も早く開設して欲しいという要望があったので、大変ありがたいというコメントが多かったです。しかし、地域性によるものと思えますが、特に四小では「子ども

を管理して欲しい」「預かってほしい」「先生にしっかり管理していただいた上で預かってほしい」という意見が多かったです。具体的には、最近学習塾などで採用している、子どもが入室時にタッチすると「ピッ」と鳴って入室時間が記録される、退室時にもタッチすると「ピッ」と鳴って退室時間が記録されるようなシステムをあびっ子クラブでも採用して欲しい、子どもが来たのか来ないのか、すべて把握して欲しいというご意見がありました。他の学童では、お母さんからあびっ子クラブに行きなさいって言われたのに、あびっ子クラブに行かないで、どこかで買い食いしていた等あるので、きちんと管理して欲しい等の「管理する」「預かる」というご意見が多かったです。先日この内容についてコーディネーターと会議で検討したところ、保護者の中であびっ子クラブが「預かる場所」という印象が非常に強くなっていて、東小のコーディネーターからあびっ子クラブのお迎えの対応についてどうしたらよいだろうかという相談がありました。これから東小コーディネーターより具体的に事例を話しますので、他のあびっ子での対応も報告させていただきながら皆さんのご意見をいただき、今後の方向性を検討させていただきたいと思えます。

(委員) 東小あびっ子から報告させていただきます。あびっ子オープンから2年間はお迎え遅れ、5時過ぎにお母さんがお迎えに来るという例は1つしかありませんでした。支援級に通っているお子さんなので、お母さんがどうしてもお迎えに行きたい、あびっ子としてもお迎えで帰りたいというお子さんだったので、お迎えを待っていたのですが、5時5分前に「今、走っています。待っていてください」という電話がお母さんからあって、少し遅れたという程度のお迎え遅れでした。ところが、今年5月に入って、お迎え遅れが立て続けに発生しました。大体がお母さんの仕事が遅くなるからという理由です。その中で2件続けてあったのが一人のお子さんなのですが、足をケガしていて松葉杖をついています。担任の先生が連れて来てくださって、荷物や下駄箱の世話もクラスの子がしてくれて、皆でバックアップはしているのですが、学校も終わっているので預からざるを得ない状況です。お母さんは成田線通勤ですから、成田線が着く時間が5時を過ぎてしまふ、過ぎてしまふと一生懸命お迎えに来られるのですが、あびっ子クラブは終わる時間が決まっているので、他のお子さんは帰ってしまっている。そのお子さんを待たせてはいますが、あびっ子クラブが3階にあるため、他のお子さんでしたら「お母さん来るまで1階で遊んで待っていれば。」ということが可能ですが、松葉杖の子を3階から降ろすのも大変で危険ですので、結局部屋でお預かりしたのですが、「お母さん、閉室は5時なのでよろしくお願いします」と言うと、何回かは5時前に来てくださるのですが、お子さんを置いて行かれて、「先生、時間までよろしくお願いします」と、それで良いのでしょうか。また、春休みから9時開室になり、お母さんが仕事に行くからということで9時前に子どもが来ていて、「9時になってくれて助かりました」とお母さんはおっしゃって、仕事に行かれる。お弁当を持参で5時までいるという子が増えてきました。あびっ子は自由に来て自由に遊んで自由に帰るといふ子どもの遊びの場として始まっ

たのに、学童が溢れているということもあるかと思いますが、第2のお預かりの施設、学童のように月々保育料がかかるわけではなく、登録料だけで、お弁当持参で5時までいられる施設、これで良いのかという気持ちになります。今年1年生の男の子が登録名簿になかったのですが、担任の先生が連れて来られて、「今日はあびっ子でお願いしますとお母さんがおっしゃっているのでお願いします。」と言われ、登録がないので市に確認したところ、登録料を納めていないことが判明し、担任の先生に「お金もらっていないので、登録完了してないです」と伝えると、担任の先生が「今日どうしようかな。」ということになって、教頭先生も出て来られて、おばあちゃんに連絡して来ていただいて、おばあちゃんにその場で500円払っていただき、「この子を家で何時間も面倒見ることはできないから、よろしくお願いします。夏休みも預かってもらわないと困ります」とおっしゃって子どもを置いて行かれました。当然、お預かりしないとおばあちゃんは大変だろうと思いました。このようなことが今年に入ってから続けて起こり、お預かり施設としての機能、お迎えに来られないお母さん、お迎えに遅れてしまう方のお預かりの方法について、皆さんのご意見を聞かせていただきたいと思います。「あびっ子は5時で閉めてしまうので、終わりです。帰ってください」というのは簡単ですが、「帰ってください」と言い切れないのと、各地区にあびっ子クラブができているので、どういう対応をしていったら良いのか足並みを揃えておきたいということもありまして、課題として検討していただきたいと思います。

(事務局) 四小においても、先ほどお話した「管理」ということで、参加カードについてのご意見がありました。子どもの自由も必要ということで、参加カードに保護者印を押して参加するのは3年生までにしてあります。4年生以上については、「今日は部活がないから遊んで帰る。ということで友だちと選べる選択肢が欲しい」等のご意見をもとに、4年生以上は参加カードを作っていません。しかし、四小の保護者からは、アンケートの中で、「この子が6年生になるまでは参加カードできっちり管理して欲しい」「きっちり管理をして、保護者印を確認してから利用させて欲しい」という意見がありました。保護者のお気持ちも分かるのですが、子どもの自由、あびっ子クラブの施設としての特徴を考えた場合、本当に6年生まで必要かということを考えなくてははいけません。去年は秋から冬にかけて日が暮れる時間が早くなり、暗くなった時の帰宅対応ということで、本委員会において話し合いをしました。お迎えに行きたいけど遅れてしまう、約束したけど遅れてしまう、子どもが「今日お母さんが迎えに来る」と言ったら一人では帰せないと思います。特に低学年の子は、「お母さんが来ると言ったから待っている」というお子さんが多いので、他のあびっ子クラブの状況を確認しながら、皆さんのご意見を参考にさせていただきたいと思います。

(委員) 一小あびっ子クラブはスタートの時からお迎えの多いクラブです。1年生の9割以上がお母さんかお友達のお母さんがお迎えに来てくれています。そのお迎え時間についても、冬場は4時半閉室ということがあるためか、5時閉室だけれど4

時半頃からどんどんお迎えが来て帰っていくという家庭が非常に多いです。4時半を過ぎた辺りで残っている子は、スタッフでお迎えなのか一人で帰るのかを確認をします。一人で帰るという場合には5時ぴったりに帰ります。お迎えの場合には部屋で待たせておきます。5時を1分位過ぎた時に必ず保護者に一人ずつ電話をかけます。一小あびっ子クラブは正門から遠いところにあり、「今、門に着きました」ということがよくありますので待たせておきます。また、前もって必ず5時に行けると思っていたのに「今、遅れています」と電話があった子については、待たせません。毎回そのように個々に対応しつつ凌いできているというのが現状です。これは一律の対応は出来ないのではないのかと思います。一小で、4月におたよりの中に、特に1年生はできる限りお迎えをお願いしますと書いています。学校経由で何度も不審者情報等が出ていたこともあるのか、非常に父母の協力が得られる学校だと思えます。どうしても時は、お母さん同士が協力して1人のお母さんがお子さん数名を連れて帰ったり、「まだお母さんが見えてないです」と伝えると、そのお母さんに連絡をとって来て「私が連れて帰ることになりました」、ということがあったりします。それでも日々戦いです。お迎え遅れは毎日ありますが無理に帰したことはないです。説明したように個別に対応しています。

(委員) 根戸小あびっ子は、人数が多いわりにはお迎え遅れが日常的にたくさんある訳ではありません。低学年については、一小と同じようにお迎えをお願いしている訳ではないですが、促すことはしています。子どもたちに対しては、受付の際に今日の帰宅方法はどうなっているか、極力聞いています。子どもたち同士で帰るのか、お迎えなのかということスタッフで確認するようにしています。あびっ子クラブは自己管理の場ではありますが、帰宅方法については注意を払っています。時々、一小と同じように「お迎えの途中まで来ています」というお電話をいただき、「子どもを入口の外で待たせておいてください」とおっしゃる場合もありますが、その時には、5時になったから部屋の外に出すということはずに部屋で待たせません。ただ、はっきりしない保護者の場合には、保護者と確認を取りながら、子どもたちの安全を守り、帰すようにしています。以上です。

(委員) 三小あびっ子クラブです。お迎え遅れはそれほど多くありません。ただ、昨年ですと1年生の妹を4年生の兄が迎えに来るというケースがありました。兄は一緒にあびっ子を利用するのではなく、自由に友達と遊んだり、習い事に行ったりと自由な時間があります。保護者が一人の家庭なので、兄が妹を迎えに来るという役割が出て来ているので、すごく頑張ってお迎えに来てくれます。しかし、遊びに夢中になってしまうと5時5分や10分になってしまうこともあり、最初のうちはお母さんの携帯に電話をかけたりしていたのですが、事情が分かってきたので、お迎えの兄に「頑張って、よく迎えに来てくれたね」と声をかけたり、「もうちょっと頑張って」「あと5分頑張って」という話をしながら、お迎えをお部屋の中で待ってもらっている状況です。特に冬の寒くて暗い時期に短い時間だからと

言って廊下や入口の外に子どもを置いておくのは切なくて、お部屋の中の暖かい場所で待ってもらおうようにしています。

(委員) 西小あびっ子クラブです。今年の1年生はお迎えにきてくれます。お母さん同士で連絡を取り合ってお迎えにきてくれることもあります。高学年は10分前に声かけをし、帰る用意をして、お迎えの子は待ちます。5時になったら、ランドセルを背負って廊下に出てもらいます。また、支援学級の子が多いので、外に出ることはできないため、廊下で待ってもらいます。親によっては「〇〇門で待っていてね」という方もいますが、そうすると、スタッフの目から子どもの姿が見えなくなってしまうので玄関の入口で待ってもらおうようにしています。

(事務局) これまで報告のあった代表的なものをホワイトボードに書かせていただいたのですが、どこのあびっ子クラブでも基本的には、今は室外に出すことはしていないというのが現状です。ただ、東小であったように、預かってくれると分かってしまうとそれがどんどん拡大していくということもあります。やはり、スタッフが言うように寒い所で子どもを待たせられない、ちょっと遠いところでは危ないので待たせられないという現状があって、一体どこまで対応したら良いのかというのがコーディネーターが悩んでいるところです。皆さんに率直な意見を伺えればと思います。

(委員長代理) 今、各あびっ子クラブから報告がありましたが、以前のお役所仕事であれば、「5時なので閉めます。出て行ってください」という話になるのですが、今はそういう時代ではありません。時間を守っていただくというのが原則ですが、この点について皆様からご意見を頂戴して、対応にあたりたいと思います。率直なご意見、ご感想でも結構です。いかがでしょうか。

(委員) あびっ子クラブではなくて、学童保育という選択肢を勧めるということはないのですか？

(事務局) 預かって欲しいなら学童保育を利用してくださいという案内はしています。

(委員) 現実として預かって欲しいというのが実情です。例えば5時まで勤務していて、なんとか滑り込みセーフかアウトか、これが毎日です、という人は誰が見ても預けているということです。子どもの自主性を重んじてあびっ子クラブへ行って欲しいという訳ではない、と理解されます。理屈ですが、学童保育という選択肢を勧めるということも考えざるを得ないということです。そういう事例があるのでしょうか。

(事務局) 子ども支援課の窓口に来られた方には、ご説明をしています。預かって欲しいなら学童保育へ、という話はしています。特に夏休み前は、あびっ子と学童保育

どちらにするか迷っているという問い合わせがたくさん来るので、その時には、子どもの入退室時間をしっかり管理してほしいというのであれば、お母さんの就労状況等確認して学童保育を勧めています。

(委員) 27年3月に国際的なシンポジウム、子どもの放課後に関するものに参加しました。一小のコーディネーターと一緒に勉強してきたのですが、世界的にみてもお母さんの社会進出に伴って、安全な放課後対策は色々な分野で取り組まれているようです。アメリカ等の例も学んできましたが、基本的に今のようにルールを守ってくれていない方はどこでも出てきます。こういう制度を作ってしまったからそれを悪用してという感じではなく、本来の家庭保育力が落ちてきてやりきれない家庭がたくさんあるのです。少しでも格差等を縮めたり、アメリカの場合ですと、成長効果としては、例えば家の中で引きこもっていたらどんどん食べてしまい肥満になり、健康面のコストがかかっていくようになる、あるいは犯罪に手を染めるケースが出てしまう等、長い目で見た時に少し家庭の弱いところを支えるものとして公的な事業が大きく機能しているというようなデータがでています。そういうことを踏まえると、今まさに話されているような、無下には断れず、もちろん保護者が変わっていただいて欲しいのですが、無理にいきなり追い出すことはしない、という姿勢は正しいし、間違っていない。こういう制度を作ったせいでそういう人たちが増えると考えてはいけないと思います。ただ、もちろんより良いあり方を考えて行かなければならないので、今おっしゃっていたように、「学童保育もあります」とお伝えして、理解していただき、その家族の家族力をあげていただけるようなことも含めて子どもたちの放課後を支えなければなりません。具体的な方策はいくつかあると思います。お迎え遅れは基本的にあってしかるべき、あるべきものだと思います。

(委員長代理) 他に何かご意見ありますでしょうか。

(委員) 私がサポーターになったきっかけは、うちの子があびっ子クラブに通っていてお迎えに行った時、子どもが遊んでいる様子や、私の友人がサポーターをやっている姿を見たりして、その時初めてあびっ子クラブのことを知りました。実はそれまであびっ子クラブがどういうところなのか分かっていなくて、保護者の方も分かっていない方がほとんどだと思います。子どもたちがあびっ子クラブでどういうふうに遊んでいるのか、どういうことをしているのか、ということを保険者にもっと興味をもって欲しいです。私の周りにも利用している方たくさんいますが、その中でもあびっ子クラブで子どもたちがどういうことをしているかということを知っている保護者はほとんどいません。お預かりしてくれる場所と考えている人がほとんどです。それが現実だと思います。お仕事をされている方だけでなく、お出掛けするからちょっと預かって欲しい、ちょっとあびっ子に行っておね、という感じで利用されています。子どもがそこで楽しく過ごしている様子とか、そういうものを知る機会を増やしたらどうかと思います。あびっ子クラブの説明

会は入学の説明会の時しかなく、しかも、それは新入生の方対象にしか行っていません。しかし実際は1年生から6年生までの子が利用するので、なんとなく始まった時から登録をされていて、そのまま毎年なんとなく登録しているという感じで、中身とか様子を知る機会がなくそのままずっと継続しているというふうになっている。他の保護者の方にも知ってもらう機会を増やすことで、多少保護者の方の理解や意識が変わってくるかなと思います。ただ期待はしますが、興味がある保護者の方は積極的に説明会等に参加してくれますが、参加しない人というのは興味がなかったりしますね。私はサポーターをやって子どもたちと遊んで子どもたちと一緒に帰る時間がすごく楽しくて、大事な時間だと思っています。うちの子は5年生なので、大体1時間くらい寄り道して帰ってくる。子どもの世界というのがあって、全てを管理したいとか預けるとか、朝家を出て帰ってくるまで全部管理ということ自体が、ちょっと違うのではないかなと疑問に思います。自分もそうでしたが、子どもの頃、「いってきます」と言って行ったふりをして帰って来るということもあったので、子どもの成長の過程の中では、あってもいいのかなと思います。そういうことも含めて保護者の方には理解していただきたいと思います。

(委員長代理) ありがとうございます。他に何かありますでしょうか？

(委員) あびっ子クラブ登録時の手紙に何て書いてあったか忘れましたが、「預かり保育ではなく、遊びの場を提供するところです。場合によって学童保育を勧めることがあります」と書いておけば、仕事で遅れてくる人には「学童どうですか」と言えるようになるから、この一文を加えればいいのではないかなと思います。

(委員長代理) ありがとうございます。他に何かございませんか。

(委員) 私は今まさに働いていて子どもを預けているので、お母さん達の気持ちが分かるのですが、あびっ子クラブは口コミで知ったという感じがあります。実際に見たことはなく、手紙が来て、曖昧なまま書いて申し込んでという感じで、なんとなく子ども任せというか組織任せという感じで、母親は何も分かってないという家庭も多いと思います。あびっ子クラブに入るにあたって、説明会は必ず行く、聞く。書面ではなく、私も含めてですが、最近の母親は欲張りになってきていると思います。仕事もしたいし、子どもも欲しいし、預かって欲しい等という、私も含めてですが、母親がわがままになっていると思います。管理して欲しいというのも、子どもと母親との信頼関係の話であって、他にそれを委ねるのは筋違いかと思うので、説明と同時に母親としての生き方を勉強する場も欲しいと思います。そうすれば、生きていくにあたり母親としてどうしなければいけないのか、感じる事ができれば、また違ってくると思います。

(委員) 例えば、先ほどのような難しい事例、単身の家庭でお兄ちゃんが迎えに来るとい

うような家庭はあると思います。お迎えに遅れる家庭というのは、説明会に来る層とは異なる層だと思います。その場合、育児支援のシステムというのは我孫子市で持っているわけで、そちらとうまく連携してつなげていけないか、公的にシステムをしっかりとルール化しましょうというのも当然だし、公的ルールをきちんと伝えましょうということも大事です。ただし、そのルールに乗り切れない人もいて、あびっ子クラブのようなところが、そういう方たちを地域ぐるみで関わって支えていくことができるということも考えてネットワークを作っていくということも必要ではないかと思います。

(委員) 何か他にご意見はありますか。

(委員長代理) 時間も限られた中でご意見を頂戴した訳ですが、あびっ子クラブの特徴を伝えきれてないということがあり、市の責任もあると思っています。通知文ですとか、説明会、或いは母親のあり方等、説明の機会を設けることができれば、あびっ子は学童保育室と違うということを説明できると思います。家庭力の低下ということもありますが、女性の社会進出というのでも進めていかなければならないものでして、少子化の問題も抱えていますので、是非女性に社会進出していただいて、お子さんの数も増やしていただき、日本を豊かにしていく、そういう全体のことを考えると、施設の在り方は緩やかにしていかないといけないと考えています。あびっ子と学童保育のあり方、違いを説明していく、今まで説明してきたつもりですが、ちょっと足りないところもありましたので、何らかの方法で伝えていきたいと思っています。基本的にはあびっ子は5時までの施設であって、預かる場、それを超えて管理する場ではないということはしっかりと伝えていきたいと思っていますので、そのような形でご了承いただきたいと思っています。色々ご意見ありがとうございました。

(委員長代理) 最後になりますが、川村学園女子大学で研究をされた成果として、お手元に小冊子があるかと思っています。放課後対策をご研究いただいてまとめていただいたものです。これについてご説明、ご披露をお願いします。

6. 川村学園女子大学研究グループによる発表

(先生) 川村学園女子大学から参りました。あびっ子クラブを中心に研究させていただいており、放課後の子どもの生活についての科学研究費の補助金をいただいた研究が3年間で一旦終了しましたので、研究代表者としてご報告とお礼を兼ねて参加させていただきました。これまでの研究の実施といたしまして、校長先生の皆様、子ども支援課の皆様、コーディネーターの方々や保護者の方々に調査研究でお世話になりましたことを深くお礼申し上げたいと思います。

(委員) 冊子と合わせて、黄色い紙もありますので、こちらもご覧ください。あびっ子ク

ラブを設置した役割や効果に関する研究の部分はこの運営委員会にも関係が深いと思いましたが、一部ご紹介させていただきます。あびっ子クラブ設置のロジックモデル、ロジックというのは理論的な見通しというものを、関係者からお話を伺ってまとめました。あびっ子クラブを設置して、色々な体験機会を用意して、様々な方が参加して、健やかな育ちの場ができると良いというのが願いだったと思います。それを目指して様々な点検指標なども作られ、先ほどもご報告があったと思います。安心安全に過ごせる点検指標として、事故報告がありました、事故の内容が比較的軽度であるが確認できたというのも良かったと思います。その他の指標として、いろいろな友だちと交流できたり、のびのび参加して新しい体験活動ができたり、世代間でお互いが交流できているか、本当に交流出来ているのか、場は作ってあるけど本当にできているのか、活動として変わっているのか、についてはなかなか目に見えません。私ども研究グループとして、そこを確かめるための中間アウトコムというのですが、確かめるための尺度等をつくって、学校の先生方のご協力を得て調査を行って参りました。具体的に、最後には子どもの放課後生活を捉える行動尺度というのを作ったりしておりますので、もし必要であればいずれ使っていけるとと思います。ここでは2010年から12年度の、あびっ子がどんどんできていた時代、あびっ子ができかかっていた時代の調査研究を簡単にご報告します。あびっ子クラブを設置したことによって、今申し上げたような子どもの生活や、具体的に期待していた効果や変化が生じているのか、ということを検証しました。あびっ子クラブを利用したかしないかによって、放課後の生活がどこでどのように変わっていったのか、ということも検証しています。調査対象校については、2010年度当時、子ども支援課からご協力をいただきまして5校の協力を得られました。学校名は特に記載していませんが、設置の状況をご覧くださいますと、2012年当時、すでに実質展開されている学校が例えばA校だとしますと、B校はその時にできたてほやほや、まだ動いた効果は目に見えなくて当然というものになっています。2年目、3年目とどんどん出来ていきましたから、構造が色々違っていました。E校についてはまだ全然できてないという学校です。このようにあびっ子の設置の状況がバラバラな学校がそろっていた状況でしたので、設置した効果が見えやすい状況でした。そこで放課後の生活について質問をしてみました。「お子さんの放課後にどれくらいあてはまりますか。」と、平日の放課後に限定して聞いています。また、「あびっ子は良いですか。」という聞き方ではなく、「放課後そのものがどれほど豊かになったか。」というロジックモデルに則した尋ね方をしています。今回は保護者に聞いた内容をご報告していますが、子どもたちにも実際に聞いており、それなりに高い満足度を得られているため、保護者の回答も思い込みではないと思います。色々な質問をしましたが、主たる目的としては、友達と活発に活動していることが達成できて変わってきているのかどうかというのが1点目。もう一つが運動です。学校施設を使って伸び伸びと体を動かすことができたかどうかを調べています。実際に調べてみますと、なかなか思ったような効果は出にくかったです。1番最初は1年生、次の年は2年生、次の年は3年生、と年を追って調べていくの

で、成長していけば、だんだん放課後が元気いっぱいになっていくのは当たり前で、これ自体は設置効果ではないです。調査のスタート段階でかなり差があります。つまり、地域の差が大きいということです。学校の特徴もあります。というわけで、あびっ子ができた前後で、ある学校でまさに変わったという結果は認めることができませんでした。個人の単位で、あびっ子に登録はしているもののなかなか使わない子もたくさんいらっしゃるので、本当の意味で使っている子と使っていない子ではどう違うだろうか、ということで全校全学年を統合した形で効果を検証し直しています。アンケートの中では、「平日放課後5日のうちの複数日どういうところに行きますか。」ということを探っています。よく行く場所としてあびっ子クラブというのを挙げている方がいます。そのチェックをしたものを3年間全部追跡しました。ヒストグラムと言われる棒グラフにより1番多いものは3年間1回もしょっちゅうあびっ子クラブを使っていないという子です。あびっ子クラブは利用を強制する場ではないので、利用していない子もたくさんいる。1回以上チェックがあって、年に平日数回は利用しましたという子たちを利用者群としました。277名利用なし、210名利用あり、半々となって検証しやすいだろうと考えました。このようなグループに分け、あびっ子の利用があるグループとないグループのお子さんたちは、どういうところが違ってくるかを調べました。それによりますと、交流という点で、他に行くところがなくて家で遊ぶということはなく、一人きりで遊ぶこともなく、たくさんの子と一緒に遊んだり、他の学年の子と一緒に過ごすという割合はあびっ子を利用するグループの方がポイントが高くなりました。またそれに伴い、一緒に調べています、仲間づくり力というプロが作った既存の尺度、こちらのポイントも上がりました。この点を見ますと、当初期待していた部分が一部ですが認められたこととなります。残念ながら、運動面についてはあまり違いがありませんでした。実際にはあびっ子は外で元気いっぱい遊ぶというのは少なかったかもしれません。また注目すべき点としては、先ほどから色々と保護者の話がでていますが、保護者の放課後に関する子どもの居場所や地域に関する評価というものも上がっています。これは私どもが作った評価項目ですが、放課後の居場所として、「あびっ子」とは言ってないです。「普段、子どもが放課後に行く場所は一人きりでなく、、躰をしてくれる大人がいたり、顔と名前を知ってくれている大人がいたり、大きな病気をした時には対応してくれる人がいるような場所」にうちの子はいる、と思えているというポイントが上がっているということです。また地域評価として、子どもは地域の人に支えられている気がする、というような評価が上がるようになりました。ただし、「上がった」と言っても、その効果というのは大きくはありません。今申し上げた保護者の地域評価のポイントが上がったというのは、利用していないグループと利用しているグループの評定で、目を細めてみて、どちらかが上かしら、という位のほんの僅かな変わり具合の差ですが、平均として見ると2.75~2.90、0.15ポイントと確実に変化はあります。あびっ子を利用している児童のグループは、利用していないグループと比べて僅かではありますが、次のような違いがありました。友だちとの交流活動は活発であり、友だちづくり能力も高

い。保護者も放課後の良い居場所があると評価しているし、地域に対して高い安心と信頼を寄せている様子でした。しかしながら先ほど申し上げたように、違いというのはごく僅かなものでした。そのように僅かに留まるという可能性について我々も話し合っていたのですが、そもそもあびっ子を利用する割合は少ない、決して高いものではないので、学校全体に波及するというわけにはいかない。また、地域の特徴、学校の特徴もあり、子ども自身も発達し変化していきますので、それは別の要因が加わっております。また、塾、友達の家、近所の公園など他の居場所の利用ということが当然あり、こちらも併せて調べていますが、例えば、近所に公園があるかないかはすごく放課後の生活に大きな影響を及ぼしています。また、あびっ子の情報が保護者に充分伝わりきれていないのではないかとこの部分も、なかなかはっきりとポイントが上がっていかない理由かもしれません。以上のように色々減点もあるのですが、選択肢の1つという意味では、大変良い形で機能できていると言えます。単に利用者が増えたとか枠が増えたということではなく、中身もきちんと伴っているのではないかと思います。今後に向けて話をしますと、一体的運営というのは単なる子育ての、学童保育的な場所、きっちり守った管理が弱くなって困った、ではなくて、良い形で広がって、自由に学びや体験をするチャンスが広がるんだと肯定的に捉えて、より良いネットワーク作りが出来ていけば、それが1番ではないかなと私は思っています。では助教に代わります。

(委員) 母親から見たお子さんの放課後の充実や、遊びから帰って来た後にお子さんとうどん話をしたかというインタビューをしたのですが、あびっ子を利用した子どもたちが、縦の繋がりを重要視しているということが分かりました。例えば、学年が上がってくると、どんどん塾へ行ったり、部活へ行ったりと利用する人数が減っているのですが、下のお子さんから見るとお兄ちゃんお姉ちゃんに関わられた、お兄ちゃんお姉ちゃんがいるから行く、上の子たちとの関わりを楽しみにしているということがあります。チャレンジタイムのようにコーディネーターやサポーターの皆さんが提供してくれる様々なプログラムもとても大事ですし、一方で、子どもたちが自発的にこんな遊びがしたい、以前やったこんな遊びをやってみたい、下の子に面白い遊びを伝えたいなど、お兄ちゃんお姉ちゃんが提供できるような環境づくりが今後できたらいいなと思っています。時間の都合で全体の発表ができませんでしたが、詳しくはこちらの中に報告書という形で書きました。これは研究だけを書いたものではなくて、広く一般の皆様にも放課後の活動を知ってもらうための啓発の部分もかなり加えてありまして、研究のような堅いものではなく、平易な文章で書きましたので、是非この文章を読んでいただいて、または周りにいるスタッフの皆さんに共有していただきたいなと思います。この冊子を作るにあたって一小のコーディネーターに写真を沢山提供していただき、選ぶのにも時間がかかってしまうほどでしたが、冊子の中に一小の様子を載せています。こういったものが広く伝わったらと思います。以上です。

(委員) 最後になりますが、子どもたちにとって学校での学習生活が重要だと思ふのも勿論ですが、放課後の生活は将来のキャリア形成や発達面で重要な意味があると思いますので、私どもも、今後放課後の生活についての研究を更に続けていきたいと思ふますのでよろしくお願い致します。ありがとうございました。

(委員長代理) ありがとうございました。事業を行っている市としては、客観的に見る場がないので、このようにまとめていただけると、課題や見直すべき問題点等が明確になって参ります。ご協力ありがとうございます。参考にさせていただきます。

7. その他 次回の運営委員会開催の日程について

(委員長代理) 最後になりましたが、その他として、次回の運営委員会の開催日程ですが、次回は8月中旬を予定しています。すでに予定等が入っていて都合が悪い方は事務局に伝えていただければと思ふます。それでは長時間にわたりありがとうございました。これで第1回放課後対策事業運営委員会を閉会させていただきます。ありがとうございました。

【閉 会】